

⑪紀の川市で「食と農」の体験ツアー ～ザ・ビッグスポーツ大日～（2月11日）

参加者：19名（子供16名、指導者3名）

概要：スポーツを通じて、心身の健康づくりや食育意識の向上につなげることを目的に、スポーツクラブへ提案。5歳～9歳の子供が参加した。

内容：農産物流通センター見学、野菜収穫体験（葉玉ねぎ、ブロッコリー、ロマネスコ）、桃ジャム体験、食育クイズ



色んな選果の機械を見学



葉玉ねぎの収穫



大きな玉ねぎが採れました



食育クイズ



桃ジャム作り体験



小さい子供たちも頑張りました

⑫旬のやさい 取って取って美味しくたべちゃうEnjoy体験ツアー（2月20日）

参加者：14名

概要：関西在住の留学生を対象に、日本の農産物の価値や地域の魅力を伝えることを目的に、交流サイト「WA. S A. B I」との初めてのコラボで実現した企画。

内容：農産物流通センター見学、野菜収穫体験（葉玉ねぎ、ブロッコリー、ロマネスコ）、桃ジャム体験、食育の話



留学生にはフルーツが大人気



雨の中の収穫体験



手作り桃ジャムが出来上がり

(2) 食育講座

旬の農産物のもぎ取り体験や健康意識高揚、調理体験などの要素を取り入れた体験イベントを企画。ふれあい交流とともに食育に関する意識高揚に繋げた。食育講座は全9回、延べ1,241名の参加となった。

①昔ながらの手植えによる「田植え体験」(6月30日)

参加者：大阪市立喜連中学校 211名、教員 14名

指導者：体験農業部会員 11名(松山、増井、厚地、西川、津村、中野、上野、杉本、山下、平岡)

内容：手植えによる田植え体験(20a)

概要：次代を担う子ども達に、食料生産現場における非日常体験の場を提供し、併せて農業者の想いや食と農を直接伝える機会とする。企画段階から、学年主任を含む数人の先生を当地に招き、参加生徒の安全管理や当JAの想いを十分に伝え、学校とJAが一体となり実り多い食農教育の機会となるよう工夫している。特に先生方も全員田に入り、子ども達と共通体験をするよう要請。また今回手植えした田を使い、一般募集で行う稲刈り体験イベント(10月4日)の案内を、学校を通じ各家庭に配布いただいた。



歓迎の挨拶とインストラクター紹介



生徒代表の挨拶



インストラクターから事前指導



クラス単位にわかれ手植え



コツをつかみスピードアップ



約20aを植えきりました

②紀の里ぶるぶるコーン 「とうもろこし祭り」(7月5日)

参加者：368人(大人230人、子ども105人、幼児33人)

指導者：体験農業部会 榎本猛、美津子、応援農家 10名、和歌山大学 アグリコ(援農ボランティアサークル) 12名

内容：とうもろこしもぎ取り&生食体験、よい食クイズラリー

概要：あいにくの雨により一部参加申し込み者にキャンセルは出たものの、小雨の降る中、予想以上の方が参加。直前の7月1日の強風による一部倒伏や連日の雨によるぬかるみで畑に入ることも自体がやや困難であったため、スタッフが畑に入り、もぎたてを届けるなどの対応を行った。しかし「自分でもぎとってみたい!」との参加者も多く、泥んこになり

ながら畑の感触を満喫した。今回のような悪条件にもかかわらず、多くの方が参加いただいたことで、あらためて農業体験や新鮮農産物に対する欲求が高いこと。また子どもに本物を体験させたい親が多い事などを痛感した。



小雨の降る中、元気に収穫



自分で収穫したとうもろこしに感動



フルーツのような瑞々しさ



よい食クイズラリーに多くの方が参加



親子協力してクイズに挑戦



焼きとうもろこしも振る舞い

③インバウンド体験モニター（8月1日）

参加者：8人（外国人モニター5人、コンサル1人、旅行会社2人）

内容：旬の農産物の収穫（野菜：キュウリ・トマト・なす、果物：桃）、農産物流通センター見学、めっけもん広場見学

概要：急増しているインバウンドツーリストに対し、人気の高い和食や日本の魅力を効果的に伝える手法としての体験農業の有効性や、ファーマーズマーケットの可能性を検証することを主目的に開催。モニターとして参加いただいたのは、訪日外国人向けのツアー企画を行う（株）フリープラスの在日外国人社員5名。国籍はミャンマー、ベトナム、韓国、イタリア。また、インバウンド観光専門のビジネスコンサルタントを行う（株）やまところ村山社長及び（株）農協観光 国際交流センター、事業開発部門担当者にも同行いただいた。



桃の収穫体験は商品性が高い



猛暑のたなか収穫体験



直売所内の免税コーナー